

理学療法士学科（昼間３年制／夜間４年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

卒業時には、国家試験に合格し、理学療法士として働くうえで必要な基本的資質を身につけている。

1. 理学療法士としての基本的な知識・技術・態度を体系的に理解し修得できている。
2. 医療・福祉現場での課題を発見し、科学的根拠に基づいた理学療法を実践し、課題解決に向けて行動できる。
3. 医療・福祉分野における専門職業人としての共感的態度および職業的倫理観を持ちつつ、他職種と協同して行動できる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

理学療法に必要な知識や技術、態度を身につけながら、臨床現場でそれらをどのように活用すべきかを考えさせたい。最終的には、臨床における課題を自ら発見し、解決できる能力を養いたい。

1. 初年次には、主に理学療法士の基礎的知識を修得することを目的とした科目を配置する。
2. 初年次には、自己管理能力・協調性・コミュニケーション力といった、理学療法士に必要な基本的資質を修得する。
3. 評価年次には、理学療法士として働くための実践的な知識・技術・態度を修得することを目的とした科目を配置する。
4. 評価年次には、医療・福祉の各分野で活躍する理学療法士を指導者とし、臨床現場で必要な検査測定、評価に関する知識・技術、態度を修得する。
5. 臨床年次には、臨床現場での理学療法の実践を通じて、自ら課題を発見し解決する力を養成する科目を配置する。
6. 健康の維持・増進、疾病および障害の予防と治療に対し、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するための基本的資質を修得する。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

理学療法を通じて医療・福祉分野に貢献しようとする意欲が高く、そのために必要な知識や技術、態度を学ぼうとする意欲のある人、また、主体的に課題を発見し、仲間と協同しながら課題解決しようとする意欲のある人を受入りたい。

1. 理学療法士に必要な知識、技術、態度の修得に意欲のある人
2. 理学療法士に必要な課題解決能力獲得の為に、高等学校卒業相当の基礎的学力を有する人
3. 幅広い年齢層に応じたコミュニケーションのための基礎的素養を持っている人

作業療法士学科（昼間３年制／夜間４年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

入学した全ての学生を、人や社会との繋がりを重視した高度なマネジメント能力を有した作業療法士に育て上げることが教育方針とする。繋がりを重視した作業療法士は、変動する社会における複雑な問題を、人や社会との繋がりの中で作業療法の持つ包括的視点、問題解決能力を生かし、つまり生活行為向上を図ることを以って問題解決を図るものである。本学科に配置された全ての科目を履修し、人や社会との繋がりを重視した作業療法士に求められる能力を備えたものに専門士を授与する。

【人や社会との繋がりを重視した作業療法士に求められる能力】

- １．専門的知識・技術を基盤に置いた実践的問題解決能力を有していること。
- ２．物事に創造的に取り組むためのコミュニケーション能力を有していること。
- ３．作業を探究する態度を有していること。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

対話を基盤に置いた実践的カリキュラムとして、専門職者としての高度な知識・技術・態度の修得及びそれらを統合・発展させるための実践的教育によって特徴付けられるカリキュラムを展開する。

- １．クラス担任制、教員との面談や講師との対話による繋がりの教育を提供する。
- ２．講義・演習・学内実習など実務家教員の専門授業による確かな学力の育成を行う。
- ３．臨床現場である病院・施設との連携による育成型臨床実習を行う。
- ４．１年生からのゼミ制度によるテーマ別学習や卒業研究を行う。
- ５．アメリカの提携大学による国際教育を行う。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

コミュニケーションを基盤に置いた育成型入試として入試を位置づけ、養成人材像である人や社会との繋がりを重視した作業療法士の育成に向けて、以下の人材を受け入れる方針である。

- １．本学科養成人材像である「人や社会との繋がりを重視した作業療法士」への理解を示し、志向性を持つ。
- ２．対人援助職を目指す上で必要な基本的コミュニケーション能力の必要性に理解を示す。
- ３．高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、基礎学力を有していること。

視能訓練士学科（昼間１年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

全ての教科課程科目を履修し、臨床において必要な基本的能力と意欲を有する者に卒業を認定する。

1. 国家試験に合格できる知識を習得していること。
2. 臨床における基本的技術を習得していること。
3. 自ら考え、理論に基づいた医療行為ができること。
4. 倫理と安全に配慮し、患者・医療スタッフ・自己を尊重できること。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

眼科領域における基本的な知識・技術の養成はもとより、自ら考え、学び続ける意欲と医療従事者としての倫理観を育成できるような科目配置をしている。

1. 前期：解剖・病態・検査・治療・訓練について体系的に科目編成する。
後期：国家試験対策授業を通じて、総合的な理解を図る。
2. 前期：実習授業を通じて、基本的な手技と説明力を養成する。
後期：臨床実習を通じて、患者個々に応じた総合的な対応力を養成する。
3. 前期：グループワークや体験型授業を通じて、自らの意見を表現する力を育成する。
後期：臨床実習を通じて、問題発見能力・解決能力を育成する。
4. 通年：患者体験、高齢者体験を始め学校生活全体を通じて、笑顔で人と接し、時間・情報・安全に配慮する力を育成し、臨床実習においては、その力を発揮し総合的な成長を図る。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

視能訓練士の職責と本学の教育カリキュラムを十分に理解し、意欲と興味を持って学び、他者を受け入れ、社会と優しく関わることができる人材を受け入れる方針である。

1. 準学士以上の学力を備え、学ぶ意欲のある人
2. 視能訓練士の業務に深く興味を持ち、目標に向かってたゆまぬ努力ができる人
3. 自己の課題を見つけ、責任を持って行動できる人
4. 心身ともに健康で、笑顔と素直な気持ちを有し、他者および自己を大切にできる人

視能訓練士学科（昼間３年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

視能訓練士として必要な倫理観・向上心・知識技術を有し、ひとりひとりの患者に合わせた検査やケアを実施する能力を備えたものに専門士を授与する。

1. 医療倫理観に基づく基本的なマナーとコミュニケーション力を身につけている。
2. 社会人基礎力を身につけ、求められていることを正しく理解し行動することが出来る。
3. 国家試験に合格できる専門的知識と患者に対して適切な判断と検査が出来る知識を有している。
4. 視能障がいを持つ人々の全体像を的確に捉え、柔軟に対応できる能力を有している。
5. 課題発見でき、自主的に探究しようとする向上心を有している。
6. 他職種や地域、国際社会に関心を持ち、広い視野で物事をとらえようとする視点を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

基本的知識技術を習得し、主体的に経験や実践を重ねることで応用的、発展的能力を育成できるよう科目配置をしている。

1. マナー教育、キャリア教育を通して人間的成長とキャリア設計を支援する。
2. 国家試験対策授業で国家試験に必要な知識を身につける。
3. 検影法を代表とした視能訓練士にしかできない卓越した技術を身につける。
4. 総合実習における症例検討を通して、soap方式思考能力を身につける。
5. 学外での主体的な学びを通して汎用的能力を育てる。
6. ボランティア活動への参加を通し、医療人として求められる観察力と気づきを養う。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

視能訓練士の職責を理解し、視能訓練士として社会貢献する為に、主体的に取り組む姿勢をもっている人材を受け入れる方針である。

1. 心身ともに健康で、明るい笑顔で人と接することができる人
2. 他者への気配りとサービスマインドを持ち、専門職として社会貢献したいと考える人
3. 向上心を持ち、目標に向かって継続した努力ができる人
4. 視能訓練士の勉強を理解する為の最低限の学力（高校卒業程度）を持っている人

言語聴覚士学科（昼間２年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

配置された教育課程単位を全て取得し、且つ医療福祉専門職種として卒後も学び続け、社会・地域に貢献できる言語聴覚士を輩出していく。

1. 言語聴覚士国家試験に合格できる能力を有している。何事にも積極的に学習する姿勢を有している。
2. 言語聴覚療法に必要な知識・技術・態度を身につけている。
3. ことばやコミュニケーションに問題を抱えた方々に対して共感的献身的態度を有している。
4. 他職種と連携をとり、協働して働くことができるコミュニケーション能力を有している。
5. 言語聴覚士として社会・地域に貢献するため学術団体や職能団体または患者・家族から主体的に学び続けられる能動性を身につけている。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

専門基礎および専門知識を主体的能動的に修得するとともに社会人として求められる資質を養成し、関係者に求められる人材を育成できるよう科目配置をする。

1. 医学全般の基礎的な知識の習得が行えるような科目を設定する。併せて、言語聴覚療法の専門的知識を学習し、基礎と専門知識の結びつきを修得する。（DP1、2）
2. ボランティア・見学・評価・臨床等あらゆる実習の場を通し、言語聴覚士の役割と責任を修得する。（DP3）
3. 主体的な学びを通して検査・評価・指導の言語聴覚療法の一連の基本的流れを修得する。（DP1、2）
4. コミュニケーション障害の多様性を理解し障害に応じた言語聴覚療法の技法を身につけ、患者、家族に貢献できる人間性をはぐくむカリキュラムと実習の場を提供する。（DP2、3、4）
5. 他職種の仕事内容を知り、他職種協働の意義を修得する。（DP4、5）

入学受入方針（アドミッションポリシー）

学士の能力を有する者で、本学の建学の理念および特色を十分に理解し、対人援助職として全ての人々を尊重できる人材を受け入れる方針である。

1. 豊かな人間性を持ち、人を愛し謙虚な姿勢で物事が考えられる人
2. 医療、福祉職として、主体的に新しい知識・技術の研鑽に努めようとする人
3. 他者の意見を否定せずに傾聴し、その中から適切な意見や方針を出せる人
4. 相手の立場に立ち、他者と協調して行動できる人

医療総合学科（昼間２年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

卒業時には広い視野を持った専門職（ドクターズクランク）として医療機関の発展に寄与できる能力を持った人材を輩出していく。その為に一般教養として短大卒業資格を取得し、生涯教育の一環として大学編入、大学院編入も視野に入れる。

1. 主体的に取り組むことができる能力を有していること。
2. 他の医療職との必要なコミュニケーション能力を有し、協働して業務が遂行できる能力を有していること。
3. 医師の事務作業軽減に寄与できる能力を有していること。
4. コメディカルの職種に対しても事務作業の軽減の為にアドバイスができる能力を有していること。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

基礎・専門知識や技術を習得することにより社会人として求められる資質の養成、育成ができるような科目配置をする。

1. 医療機関でドクターズクランクとして活躍するための知識が身につけられる科目を設置している。
2. 医師のみならずコメディカルとも協働できるための科目を設置している。
3. ドクターズクランクのみならずメンタルヘルスも学びメンタルケアができる科目を設置している。
4. ドクターズクランクのみならず事務職全般で活躍できる知識を身につけられる科目を設置している。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

ドクターズクランクとして職責を十分に理解し、主体的に行動できる人材を受け入れる方針である。

1. ドクターズクランクに関する高い専門性を身につけたい人
2. 医療分野、事務分野に関心を持ちチーム医療の一員として医療機関に貢献したい人
3. 常に物事に関して改善、発展を考え行動する人
4. 生涯学習に興味があり、日々、努力をする人

専攻科（昼間１年制）

卒業方針（ディプロマポリシー）

卒業時には広い視野を持った専門職（ICT 知識・診療情報管理士・医療情報技師）として医療機関の発展に寄与できる能力を持った人材を輩出していく。その為に一般教養として大卒業資格を取得し、生涯教育の一環として大学院編入も視野に入れる。

1. 主体的に取り組むことができる能力を有していること。
2. 他の医療職との必要なコミュニケーション能力を有し、協働して業務が遂行できる能力を有していること。
3. ICT 関連のサポートができる能力を有していること。
4. コメディカルの職種に対しても ICT 導入による事務作業の軽減のアドバイスができる能力を有していること。

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

基礎・専門知識や技術を習得することにより社会人として求められる資質の養成、育成ができるような科目配置をする。

1. 医療機関で ICT 分野で活躍するための知識が身につけられる科目を設置している。
2. 医師のみならずコメディカルとも協働できるための科目を設置している。
3. 電子カルテに対する科目を設置している。

入学受入方針（アドミッションポリシー）

医療情報技師として職責を十分に理解し、主体的に行動できる人材を受け入れる方針である。

1. 医療情報に関する高い専門性を身につけたい人
2. 医療分野、事務分野に関心を持ちチーム医療の一員として医療機関に貢献したい人
3. 常に物事に関して改善、発展を考え行動する人
4. 生涯学習に興味があり、日々、努力をする人